

誰にでも使いやすい バリアフリーな教科書

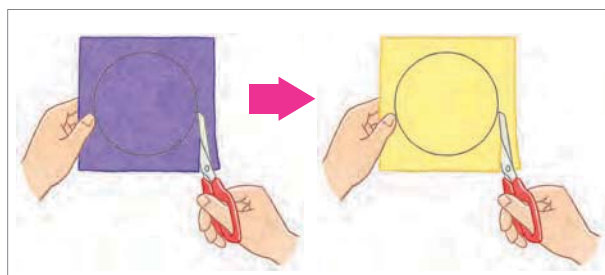
色覚の個性に対応する「カラーユニバーサルデザイン」の考え方で紙面の配色を工夫するとともに、特別支援教育やインクルーシブ教育に対応した配慮を行い、紙面を構成をしています。

カラーユニバーサルデザインの取り組み

色の感じ方は人によって異なります。その割合を学校に当てはめて考えると、1学級につき平均して1～2人の割合で色覚の児童がいると推定されます。多様な色覚をもつさまざまな人に配慮して、全ての人に情報が正確に伝わるように配慮されたデザインをカラーユニバーサルデザインと言います。

色の組み合わせを識別しやすいものにしたり、色だけに頼らなくても内容が理解できるように工夫したりして、支障なく学習できる教科書づくりに取り組んでいます。

カラーユニバーサルデザインに関する内容については、
一般社団法人日本色彩研究所の赤木重文先生に監修していただいています。



カラーユニバーサルデザインの取り組みの例

明度の違いなどにより、左の図よりも右の図のほうが色弱の人にも内容が判明しやすくなっています。

インクルーシブ教育への取り組み

個々の児童によって、学習活動を行う場合に生じる困難さが異なることに留意して表現を工夫しました。

意味の単位で文章がとらえられるよう、文字での表記をわかりやすくしたり、写真や絵、図の重なりをできる限り減らしたりして、発達障害のある児童に配慮しました。

形のイメージがとらえにくい児童に対して、ヒントや説明文を追加し、手順や学習の流れがわかりやすくなるよう工夫しました。

安全
●出し方

さやから出すときは、
両手の親指を合わせて、
おしながきからゆっくり
ぬく。

●しまい方

しまうときは、はの先を
さやに入れた後、
ゆっくりとおくまで
おしこむ。

はの先に手を置かないように
気をつけて使う。

インクルーシブ教育への取り組みの例

意味のまとまりごとに改行位置を工夫することによって、障害のある児童にとっても、文章の意味がとらえやすくなっています。

特別支援・インクルーシブ教育に関する内容については、
東京家政大学の半澤嘉博先生、明星大学の明官茂先生に監修していただいています。



日本語指導が必要な児童への対応として、指導書でも取り組んでいます。

→本冊子p.39参照